

2025 年 5 月 29 日～30 日の 桜島南岳噴出物構成粒子の特徴

2025 年 5 月 29 日～30 日の桜島南岳噴火の噴出物は、黒色や灰色の粒子を主体としており、軽石状粒子（発泡した淡褐色粒子）はほとんど見られない。この特徴は、4 月 8 日～9 日や 5 月 16 日～20 日に採取された火山灰と類似している。このことは、近年の桜島の噴火と同様、火道浅部における滞留および結晶化を経たマグマが破碎され、噴出したことを示唆する。

2025 年 5 月 29 日 9 時 10 分～2025 年 5 月 30 日 9 時 10 分に、鹿児島地方気象台内の露場に設置した降灰皿で採取した試料を観察した。これらの火山灰は、5 月 29 日から 30 日にかけて発生した 4 回の噴火で噴出したものである。火山灰は雨に混じった状態で採取され、乾燥重量は 191g/m^2 であった。観察には水洗・篩い分けした粒径 $250\text{--}500\text{ }\mu\text{m}$ の粒子を用いた。

観察した火山灰は結晶化の進んだ黒色や灰色の粒子(L)が主体であり、約 3～4 割を占める。また、ガラス光沢を呈する黒色粒子(G)が存在し、その一部には気泡痕が見られる。その他に、鉍物片(C)、赤色酸化岩片(A)等が含まれる。5 月 15 日 14 時 8 分～5 月 16 日 11 時 5 分に採取した火山灰に多量に含まれていた軽石状粒子（発泡した淡褐色粒子）は、今回観察した火山灰にはほとんど見られなかった。これらの特徴は、4 月 8 日 14 時 10 分～4 月 9 日 14 時 52 分に採取された火山灰や、5 月 16 日 11 時 5 分～5 月 20 日 15 時 45 分に採取された火山灰と類似している。

気泡痕を持つ粒子はほとんど見られないことから、近年の桜島の噴火と同様、火道浅部で滞留・脱ガスし結晶化したマグマが破碎され噴出されたものと考えられる。

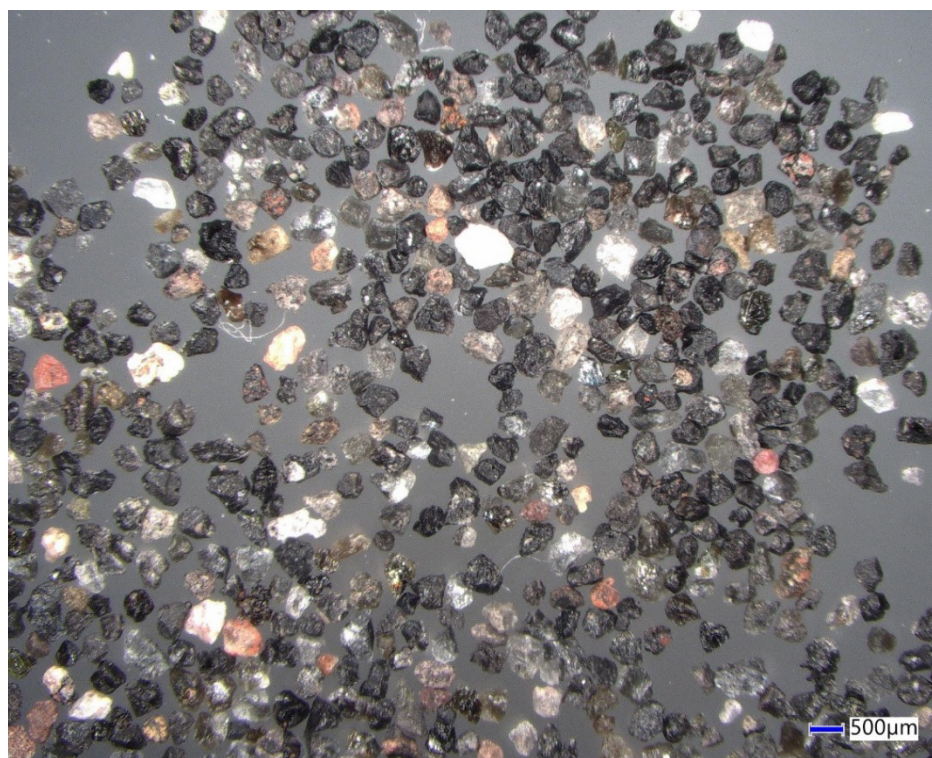


図 1. 2025 年 5 月 29 日 9 時 10 分～2025 年 5 月 30 日 9 時 10 分に、鹿児島地方気象台露場で採取された火山灰の構成粒子写真 (粒径 250–500 μm). 鹿児島地方気象台採取.

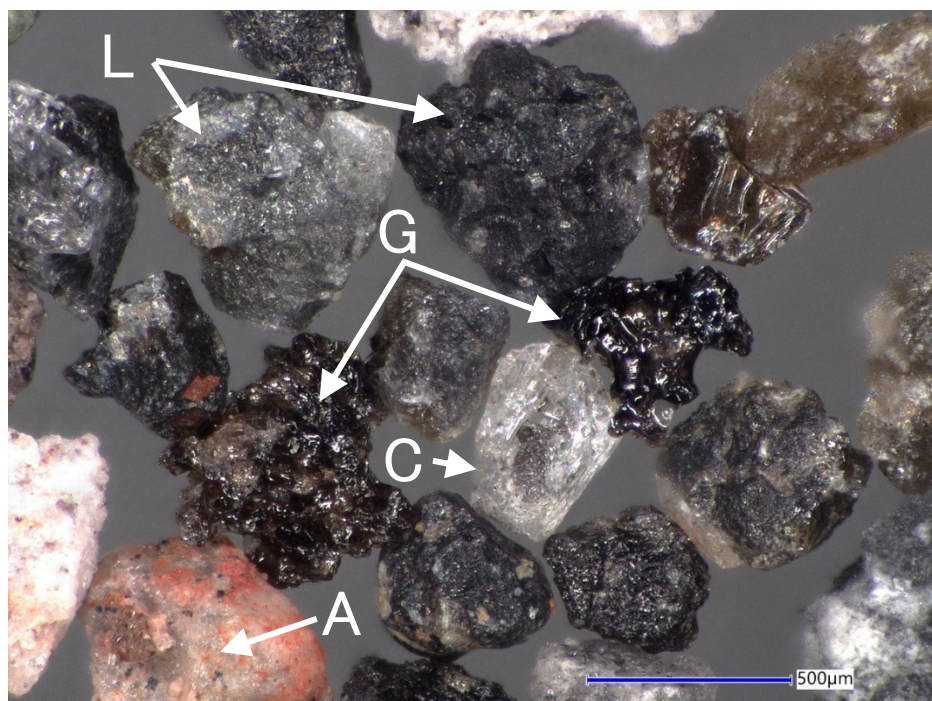


図 2. 火山灰試料の拡大写真. 結晶化の進んだ黒色や灰色の粒子(L), ガラス光沢を呈する黒色粒子(G), 鉱物片(C), 赤色酸化岩片(A)

なお、観察した噴出物の情報は、産総研火山灰データベースに収録予定である.

https://gbank.gsj.jp/volcano/volcanic_ash/indexj.php